

# 令和7年度参考資料

<頁>

1	家庭教育学級について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	家庭教育学級（英語スクール）について・・・・・・・・・・・・・・・・	7
3	青少年体験学習事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
4	ふるさと教育講座について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
5	スクールガード配置事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
6	学校支援事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
7	学校運営協議会及び地域学校協働活動について・・・・・・・・・・・・・・・・	38

# 1 家庭教育学級について

## (1) 令和7年度家庭教育学級事業一覧表（令和8年2月28日現在）

	園名	実施日時	学習内容	講師	参加者数
1	日頃市保育園	7月5日(土) 9:30~10:30	ストレッチ講座	大船渡バレー教室 中村 愛 氏	75人
2	末崎こども園	8月30日(土) 9:30~10:30	ストレッチ講座	大船渡バレー教室 中村 愛 氏	25人
3	大船渡保育園	11月18日(火) 10:00~11:00	腸活について	腸活講師 岩沼 千央 氏	59人
4	明和保育園	12月6日(土) 9:00~10:40	3B体操	公益社団法人日本3B体操協会 公認指導者 小平湯 かおる 氏 公認指導者 泉田 恵子 氏	77人

## (2) 令和7年度家庭教育学級アンケート集計結果（令和8年2月28日現在）

○参加人数 236人（うち保護者121人）

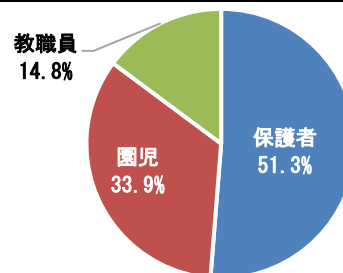
○アンケート回収数 71件（回収率54.6%）

※園児はアンケート対象外。日頃市保育園では1人の園児に対し1枚提出。

※端数処理により比率の計が100%にならない場合があります。

成果指標	目標	実績	達成率
学習内容の満足度	80.0%	98.6%	123.2%
1カ所あたりの前年度比参加人数 R6:57.3人 (172人/3園)	前年度比同数以上	59.0人 (236人/4園)	103.0%
学習内容の家庭の取組意欲	80.0%	97.2%	121.5%
学習内容の理解度	80.0%	97.2%	121.5%

参加者内訳	年代	人数	比率
	保護者	121	51.3%
	園児	80	33.9%
	教職員	35	14.8%
	地域関係者	0	0.0%
計	236	100.0%	

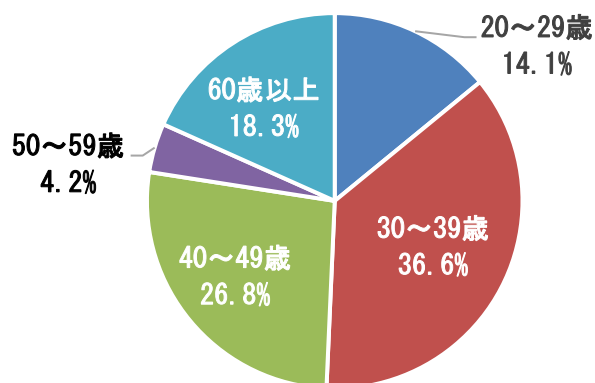


### 【総括】

- ・こども園・保育園の保護者及び教職員等を対象に、子どもとの関わり方や子育てに関する課題等について学ぶ機会を提供した。
- ・参加者からは、家庭での実践につなげやすい内容であったとの意見が多く寄せられ、子どもの健やかな成長を支える家庭教育支援に資する講座となったものと考えられる。
- ・今後も関係機関等と連携を図りながら、社会情勢や子育てを取り巻く環境の変化を踏まえた講座を企画・実施し、家庭教育支援の充実に努めていく。

### Q 1. 参加者の年齢

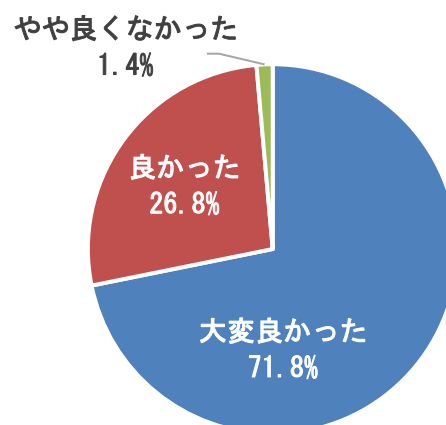
年代	人数	比率
20歳未満	0	0.0%
20～29歳	10	14.1%
30～39歳	26	36.6%
40～49歳	19	26.8%
50～59歳	3	4.2%
60歳以上	13	18.3%
無回答	0	0.0%
計	71	100.0%



「30～39歳」の参加が多かった。

### Q 2. 学級に参加した感想（満足度）

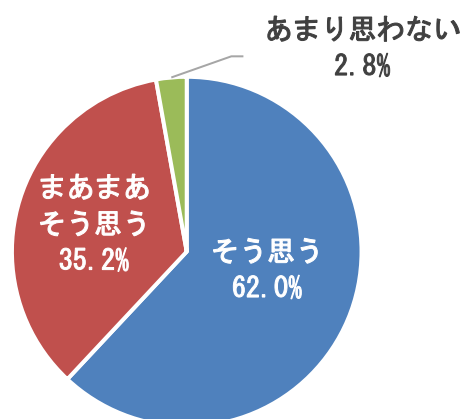
評価	人数	比率
大変良かった	51	71.8%
良かった	19	26.8%
やや良くなかった	1	1.4%
良くなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	71	100.0%



大多数の人が「大変良かった」「良かった」と回答している。

### Q 3. 学習内容への取組意欲

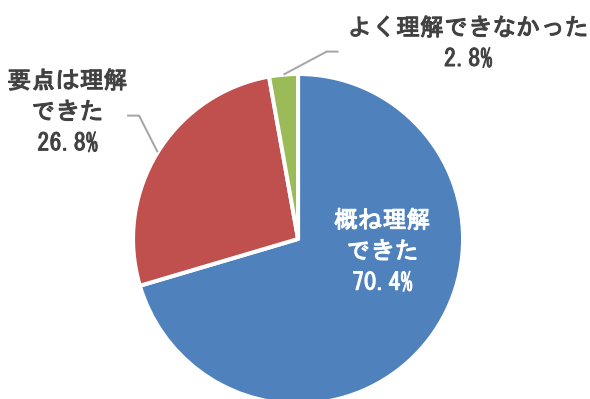
取組意欲	人数	比率
そう思う	44	62.0%
まあまあそう思う	25	35.2%
あまり思わない	2	2.8%
思わない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	71	100.0%



今回の学習内容について、97.2%の人が家庭で取り組む意欲があると回答している。

#### Q 4. 内容の理解度

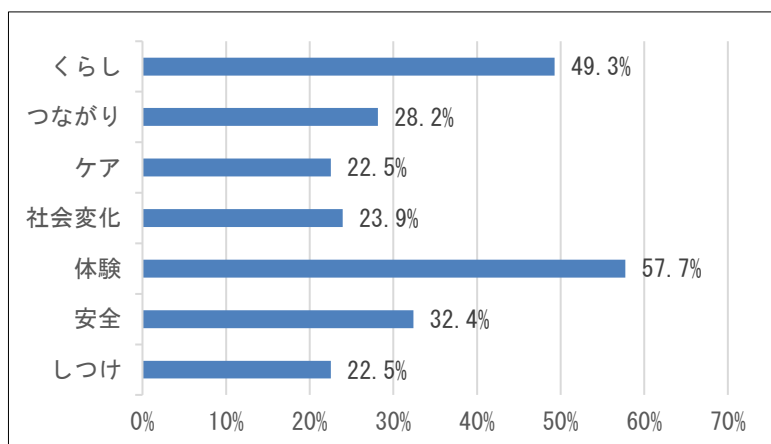
理解度	人数	比率
概ね理解できた	50	70.4%
要点は理解できた	19	26.8%
よく理解できなかった	2	2.8%
全く理解できなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	71	100.0%



97.2%の人が学習内容を理解できたと回答している。

#### Q 5. 家庭教育学級で希望するテーマ（複数回答）回答者数 71 人

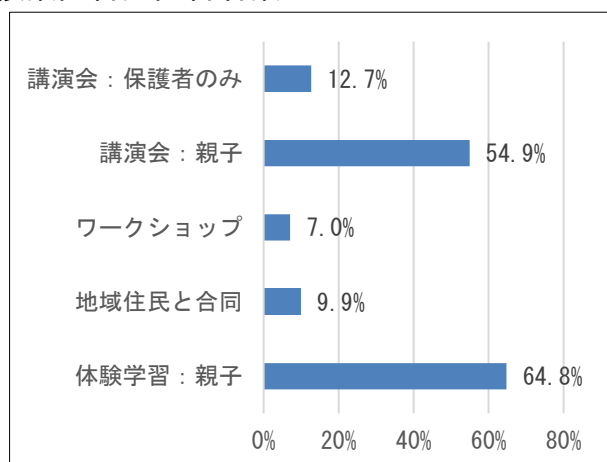
希望テーマ	人数	比率
暮らし	35	49.3%
つながり	20	28.2%
ケア	16	22.5%
社会変化	17	23.9%
体験	41	57.7%
安全	23	32.4%
しつけ	16	22.5%



生活習慣や健康管理等の暮らし、スポーツや文化等の体験をテーマにした内容を希望する声が多い。

#### Q 6. 家庭教育学級で希望する学習形態（複数回答）回答者数 71 人

学習形態	人数	比率
講演会：保護者のみ	9	12.7%
講演会：親子	39	54.9%
ワークショップ	5	7.0%
地域住民と合同	7	9.9%
体験学習：親子	46	64.8%



親子での講演会や体験学習を希望する回答が多い。

## Q 7. 自由記載(抜粋)

- ストレッチ講座（日頃市保育園）
  - ・ 体を動かすのはいいと思いました。小学生になってもできそうだったので参考にさせていただきます。
  
- ストレッチ講座（末崎こども園）
  - ・ ストレッチもいろいろありますが、私でも取り組みやすく、体に効いていると思いました。とても良かったです。
  - ・ 今日はとても楽しかったです。また参加したいと思いました。
  - ・ 孫と一緒に楽しめるストレッチ講座、良かったです。
  
- 腸活について（大船渡保育園）
  - ・ 大変参考になりました。
  - ・ 子どもと一緒に学習できて、家庭でのきっかけづくりになると思いました。
  
- 3B 体操（明和保育園）
  - ・ 子どもとコミュニケーションを取りながら一緒に楽しめるとても良い内容でした。
  - ・ 子どもとつきっきりで遊ぶことがあまりないので、このような機会があり、とても楽しかったです。

## 令和7年度家庭教育学級講座写真

### 1 日頃市保育園



### 2 末崎こども園



### 3 大船渡保育園



#### 4 明和保育園



## 2 家庭教育学級（英語スクール）について

### (1) 令和7年度家庭教育学級（英語スクール）事業一覧表（令和8年2月28日現在）

	実施日時	学習内容	講師	定員	参加者数	場所
1	6月21日(土) ①未就学児(年中) 9:30~10:30 ②未就学児(年長) 11:00~正午	英語に触れる活動 (英会話・ゲーム・ 歌・ダンスなど)	佐藤英会話 高畑 友紀 氏 本間 理子 氏	20組 40人 (①10組 20人、 ②10組 20人)	12組 24人 (①6組 12人、 ②6組 12人)	カメラア ホール 多目的 ホール
2	11月15日(土) ①未就学児 9:30~10:30 ②小学1、2年生 11:00~正午	英語に触れる活動 (英会話・ゲーム・ 歌・ダンスなど)	佐藤英会話 佐藤 利恵 氏 高畑 友紀 氏	20組 40人 (①10組 20人、 ②10組 20人)	13組 26人 (①9組 18人、 ②4組 8人)	カメラア ホール 多目的 ホール

### (2) 令和7年度家庭教育学級（英語スクール）アンケート集計結果（令和8年2月28日現在）

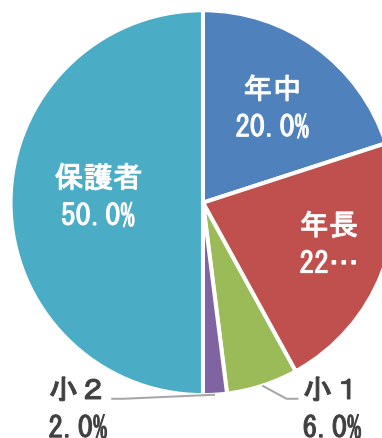
成果指標(全2回中2回の値)	目標	実績	達成率	
定員に対する参加率	80.0%	62.5%	78.1%	○事業参加者数 50人 ○アンケート対象者数 25人 (保護者) ○アンケート回収数 25通 (回収率 100%) ○講座内訳 第1回 参加 12組 24人 (定員 20組 40人) 第2回 参加 13組 26人 (定員 20組 40人)
参加者のうち「新しくやりたいことが見つかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫したりするようになった」と回答した保護者の割合	50.0%	60.0%	120.0%	
子どもが「意欲的に取り組むことができた」「意欲的に取り組むことがまあまあできた」と回答した保護者の割合	80.0%	96.0%	120.0%	

#### 【総括】

- ・委託先講師の変更により、これまで参加していた親子にとっても新鮮さのある講座内容を提供することができ、事業の活性化につながった。
- ・学習内容はゲーム、ダンス、英会話、歌、色塗りなど、「動的活動」と「静的活動」を組み合わせた構成となっており、さまざまなアプローチにより英語に慣れ親しむプログラムであった。その結果、子どもたちは飽きることなく集中して取り組んでいた。また、親子で行う活動も多く取り入れられており、家庭における継続的な学習につながるよう工夫された内容であった。
- ・全2回のアンケート結果では、保護者の感想として、「とてもよかった」「よかった」と回答した割合が100%となり、参加者全員に満足いただけた講座であったことが示された。さらに、子どもについて「自分から進んで取り組むことができたか」という問いに対し、「できた」「まあまあできた」と回答した保護者の割合は96.0%となり、昨年度の92.8%を上回る結果となった。
- ・申込者全員に学習の機会を提供することができたことに加え、少人数での実施により、講師や参加者同士のコミュニケーションが活発になるなどの効果も見られた。一方で、申込みが定員に満たなかったことから、来年度に向けては、より多くの申込みにつながるよう、申請方法の見直し、対象範囲の拡大を図る。

Q 1. 参加者の学年 (単位：人)

項目	第1回	第2回	合計	比率
年中	6	4	10	20.0%
年長	6	5	11	22.0%
小1	-	3	3	6.0%
小2	-	1	1	2.0%
保護者	12	13	25	50.0%
無回答	0	0	0	0.0%
計	24	26	50	100.0%

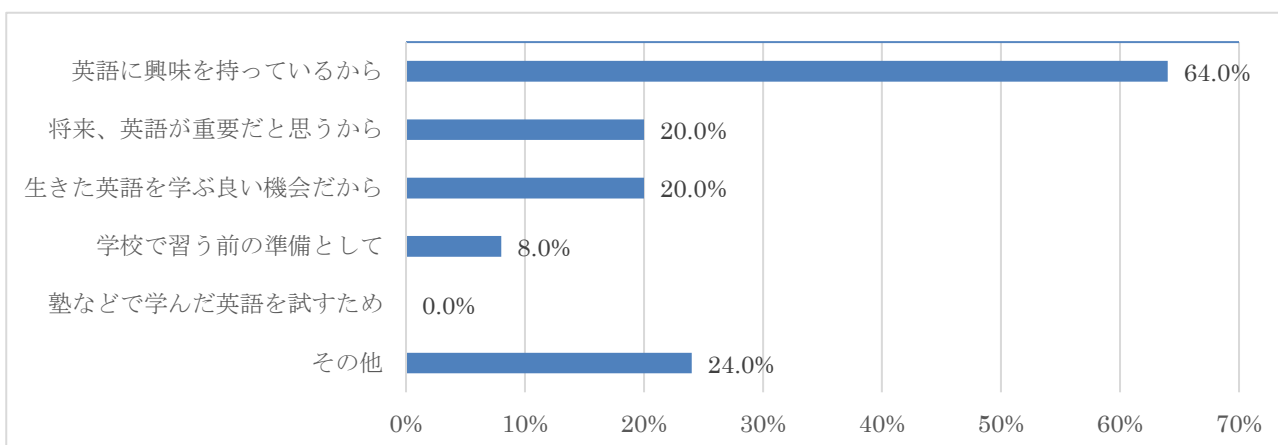


第1回の対象を未就学児のみとしていたため、年中児、年長児の参加が多い結果となった。

Q 2. 参加理由 (複数回答) 回答者数 25 人 (単位：人)

項目	第1回	第2回	合計	比率
英語に興味を持っていたことから	9	7	16	64.0%
将来、英語が重要だと思うから	3	2	5	20.0%
生きた英語を学ぶよい機会だから	4	1	5	20.0%
学校で英語を習う前の準備として	0	2	2	8.0%
塾などで学んだ英語を試すため	0	0	0	0.0%
その他	3	3	6	24.0%

※その他回答は、「本人がやってみたくて意欲的だったから」「本人が英語に興味があるから」「英語でほかの国の人と話すのは楽しいから」「チラシを見て本人が参加を希望したから」等。

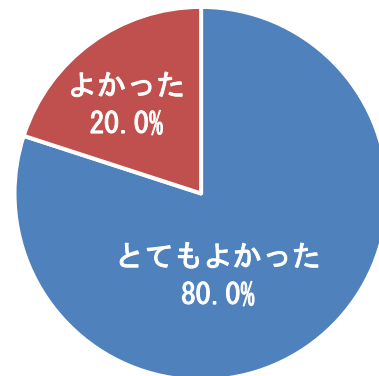


「英語に興味を持っているから」という回答がもっとも多かった。

Q 3. 講座の感想

(単位：人)

項目	第1回	第2回	合計	比率
とてもよかった	11	9	20	80.0%
よかった	1	4	5	20.0%
あまりよくなかった	0	0	0	0.0%
よくなかった	0	0	0	0.0%
無回答	0	0	0	0.0%
計	12	13	25	100.0%

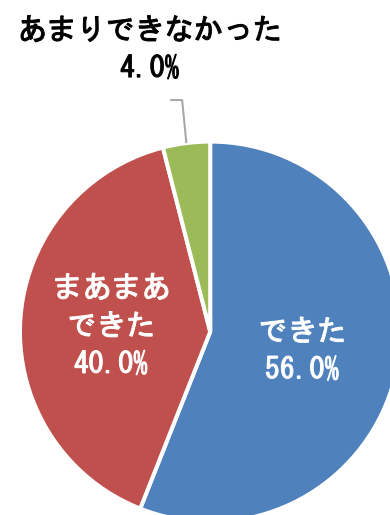


全員から「とてもよかった」「よかった」と回答いただき、満足度が高い結果となった。

Q 4. 学習意欲

(単位：人)

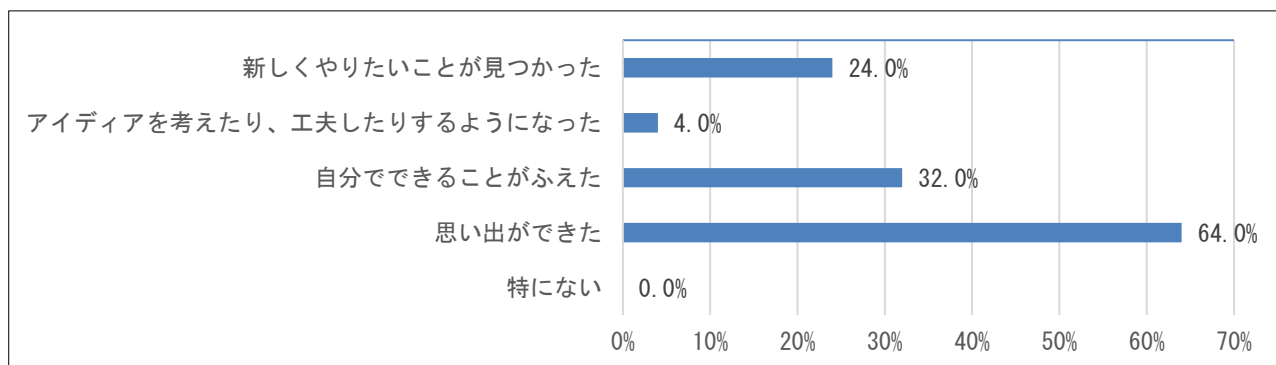
項目	第1回	第2回	合計	比率
意欲的に取り組むことができた	6	8	14	56.0%
意欲的に取り組むことがまあまあできた	6	4	10	40.0%
意欲的に取り組むことがあまりできなかった	0	1	1	4.0%
意欲的に取り組むことができなかった	0	0	0	0.0%
無回答	0	0	0	0.0%
計	12	13	25	100.0%



子どもが「意欲的に取り組むことができた」、「意欲的に取り組むことがまあまあできた」と回答した保護者の割合が96%となり、目標値の80%を上回った。

Q 5. 講座に参加したことによる変化（複数回答） 回答者数 25 人 (単位：人)

項目	第 1 回	第 2 回	合計	比率
新しくやりたいことが見つかった	3	3	6	24.0%
アイデアを考えたり、工夫したりするようになった	1	0	1	4.0%
自分でできることがふえた	2	6	8	32.0%
思い出ができた	10	6	16	64.0%
特にない	9	0	9	0.0%



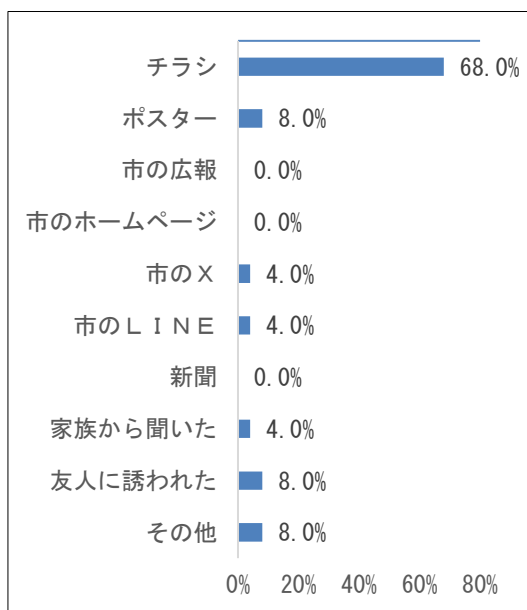
「思い出ができた」が 64% と最も多く、次いで「自分でできることが増えた」(32%)、「新しくやりたいことが見つかった」(24%) となった。

「自分でできることが増えた」や「新しくやりたいことが見つかった」といった回答から、参加者が主体的に取り組んだり、新たなことに関心を向けたりするきっかけとなった可能性がうかがえる結果となった。

Q 6. 講座を何で知ったか（複数回答） 回答者数 25 人

(単位：人)

項目	第 1 回	第 2 回	合計	比率
チラシ	8	9	17	68.0%
ポスター	0	2	2	8.0%
市の広報	0	0	0	0.0%
市のホームページ	0	0	0	0.0%
市の X	1	0	1	4.0%
市の LINE	0	1	1	4.0%
新聞	0	0	0	0.0%
子どもから聞いた	0	1	1	4.0%
友人に誘われた	1	1	2	8.0%
その他	2	0	2	8.0%



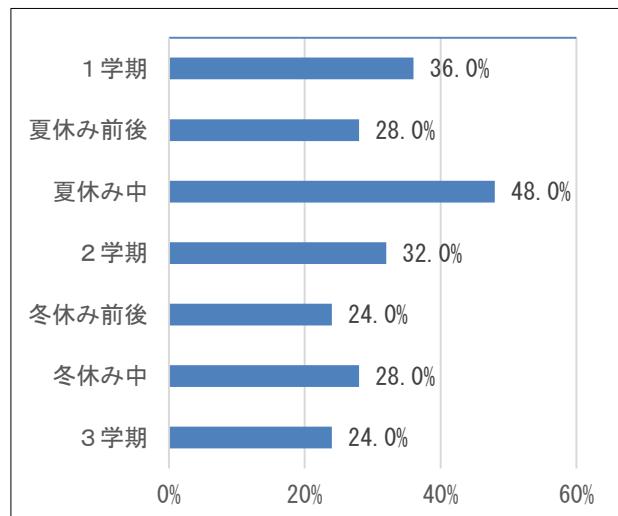
※その他回答は、「保育園からのチラシ」(2人)

市内のこども園等を通じて、対象園児全員にチラシを配布したことにより、周知が図られたものと考えられる。次年度以降も、同様の周知方法を継続して取り入れていきたい。

Q 7. 講座に参加しやすい時期（複数回答） 回答者数 25 人

（単位：人）

項目	第 1 回	第 2 回	人数	比率
1 学期	4	5	9	36.0%
夏休み前後	2	5	7	28.0%
夏休み中	6	6	12	48.0%
2 学期	4	4	8	32.0%
冬休み前後	2	4	6	24.0%
冬休み中	2	5	7	28.0%
3 学期	4	2	6	24.0%



参加しやすい時期として、「夏休み中」を選択した割合が最も高かった。

Q 8. 自由記載欄（抜粋）

○ 第 1 回

- ・ 先生方も優しく、子どもも楽しそうに参加していました。もう 1 回行きたいと言っていました。（年中保護者）
- ・ 英語に興味を持っていたので、これからも英語に触れさせたいです。（年中保護者）
- ・ 少し恥ずかしがり屋なところがありますが、楽しそうに参加していて良かったです。家でも少しずつ英語を取り入れていきたいです。（年長保護者）
- ・ 恥ずかしがる場所もあったが、楽しそうだったので参加して良かったです。（年長保護者）
- ・ 親子で英語の勉強を楽しくできて良かったです。（年長保護者）

○ 第 2 回

- ・ 初めて英語に触れる機会としてとても良かったです。（年中保護者）
- ・ 楽しく参加できました。英語を学ぶ良いきっかけになりました。（年長保護者）
- ・ 英語を話す機会があり、とても良かったです。（年長保護者）
- ・ 少人数というのも発言の機会が増えるので良かったと思う。子どももとても楽しかったと言っていました。（小 1 保護者）
- ・ 初めは緊張していましたが、徐々に慣れてきて楽しめたので良かったです。（小 2 保護者）

# 令和7年度家庭教育学級（英語スクール）「英語体験教室」講座写真

## 1 第1回



## 2 第2回



### 3 青少年体験学習事業について

#### (1) 令和7年度青少年体験学習事業一覧表（令和8年2月28日現在）

	実施日時	学習内容	講師	定員	参加者数	場所
1	7月13日（日） 10：00～11：30	こども科学 実験教室	明治大学理工学部 准教授 本多 貴之 氏	20人	18人	カメラア ホール
2	12月21日（日） 10：00～11：30	こども鑑識 体験教室	大船渡警察署員	20人	28人	大船渡 警察署

#### (2) 令和7年度青少年体験学習事業アンケート集計結果（令和8年2月28日現在）

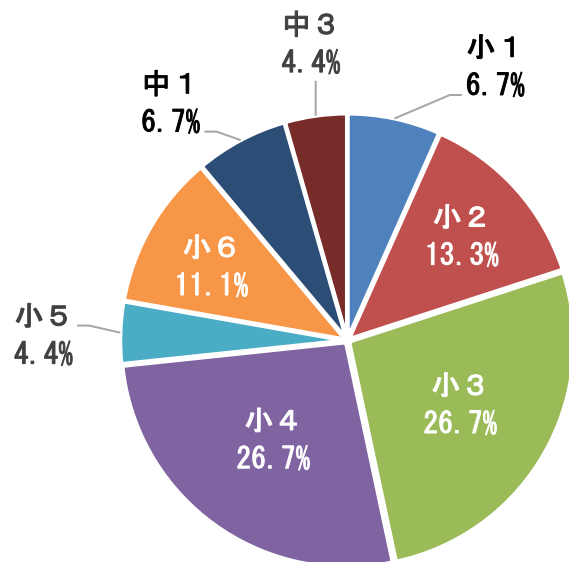
成果指標（全2回中2回の値）	目標	実績	達成率	○事業参加者数 46人 科学実験教室 18人 鑑識体験教室 28人 ○アンケート回収数 45通 （回収率 97.8%）
定員に対する参加率	80.0%	115.0%	143.8%	
参加者のうち「新しくやりたいことがみつかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫したりすることが楽しかった」と回答した参加者の割合	50.0%	95.6%	191.2%	
「自分から進んで取り組むことができた」「自分から進んで取り組むことがまあまあできた」と回答した参加者の割合	80.0%	97.8%	122.3%	

#### 【統括】

- ・本事業では、学校や家庭では体験する機会の少ない分野に着目し、青少年の興味・関心を喚起するテーマ設定を行った。参加者からは内容について「良かった」との声が多く寄せられており、学習ニーズを踏まえた、適切なテーマ設定であったと考えられる。
- ・いずれの事業においても、講師によるきめ細やかな指導が行われ、「こども科学実験教室」では参加者全員が実験を成功させることができ、「犯人をさがせ！こども鑑識体験教室」では、全員が指紋採取や逮捕術等を体験することができた。参加者にとって満足度の高い講座となった。
- ・アンケート結果では、「とてもよかった」「よかった」と回答した参加者が100%となり、全員から高い評価を得ることができた。また、「自分から進んで取り組むことができたか」という問いに対しても、「できた」「まあまあできた」と回答した参加者は97.8%となり、学校や家庭では体験できない分野における学習機会を十分に提供できたものと評価できる。
- ・学習前後の変化として、「新しくやりたいことがみつかった」「アイデアを考えたり工夫したりすることが楽しかった」「自分でできることが増えた」といった項目を選択した参加者の割合は、両事業ともに高く、事業目的に沿った講座を実施することができたと言える。

Q 1. 参加者の学年 (単位：人)

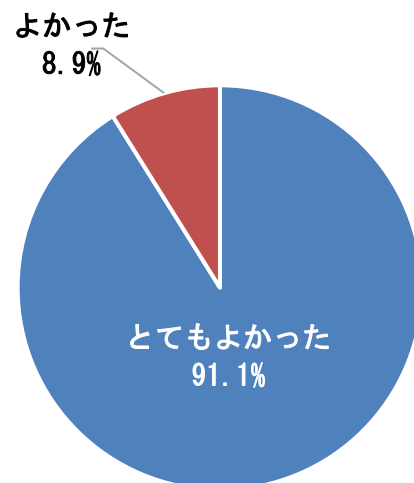
項目	科学	鑑識	合計	比率
小1	1	2	3	6.7%
小2	4	2	6	13.3%
小3	4	8	12	26.7%
小4	7	5	12	26.7%
小5	0	2	2	4.4%
小6	1	4	5	11.1%
中1	1	2	3	6.7%
中2	0	0	0	0.0%
中3	0	2	2	4.4%
無回答	0	0	0	0.0%
計	18	27	45	100.0%



「こども科学実験教室」と比較して「こども鑑識体験教室」では中学生の参加が増加しており、内容や周知方法が一定程度、中学生の学習ニーズと合致したものと考えられる。今後は、今回の結果を踏まえつつ、幅広い年代の参加につながるよう、引き続き工夫を重ねながら事業を進めていきたい。

Q 2. 講座の感想 (単位：人)

項目	科学	鑑識	合計	比率
とてもよかった	15	26	41	91.1%
よかった	3	1	4	8.9%
あまりよくなかった	0	0	0	0.0%
よくなかった	0	0	0	0.0%
無回答	0	0	0	0.0%
計	18	27	45	100.0%

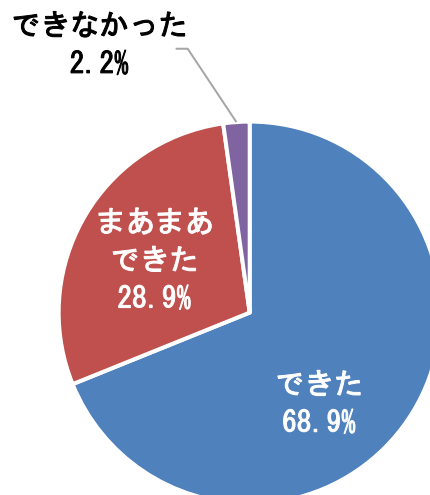


参加者全員が「とてもよかった」「よかった」と回答しており、満足度が高い結果となった。

### Q 3. 学習意欲

(単位：人)

項目	科学	鑑識	合計	比率
自分から進んで取り組むことができた	11	20	31	68.9%
自分から進んで取り組むことがまあまあできた	7	6	13	28.9%
自分から進んで取り組むことがあまりできなかった	0	0	0	0.0%
自分から進んで取り組むことができなかった	0	1	1	2.2%
無回答	0	0	0	0.0%
計	18	27	45	100.0%

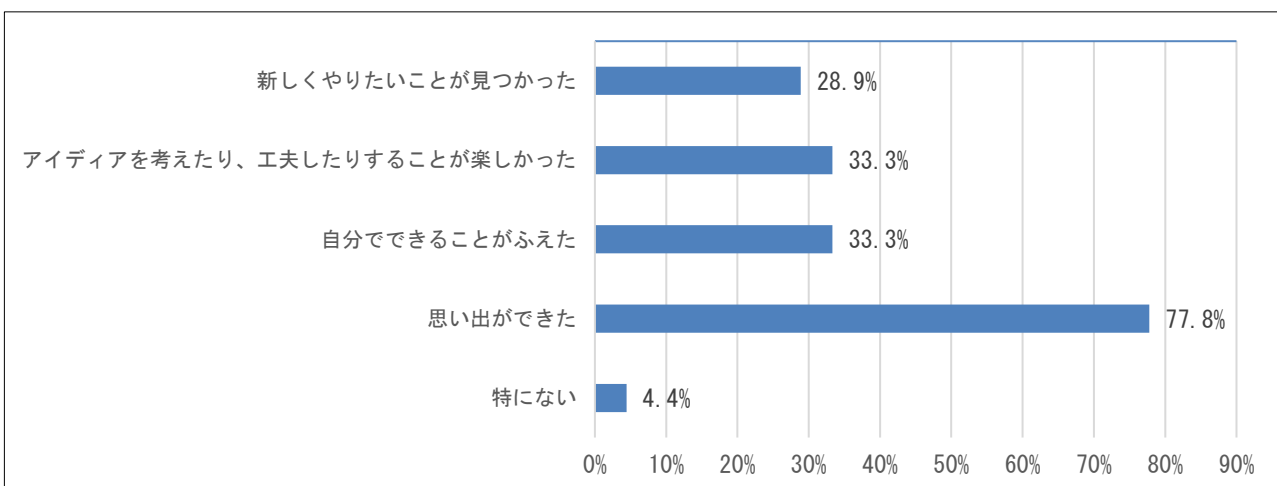


「自分から進んで取り組むことができた」「自分から進んで取り組むことがまあまあできた」と回答した参加者の割合が 97.8% となり、目標値である 80% を上回ることができた。

### Q 4. 講座に参加したことによる変化（複数回答） 回答者数 45 人

(単位：人)

項目	科学	鑑識	合計	比率
新しくやりたいことが見つかった	6	7	13	28.9%
アイデアを考えたり、工夫したりすることが楽しかった	4	11	15	33.3%
自分でできることがふえた	7	8	15	33.3%
思い出ができた	14	21	35	77.8%
特にない	0	2	2	4.4%

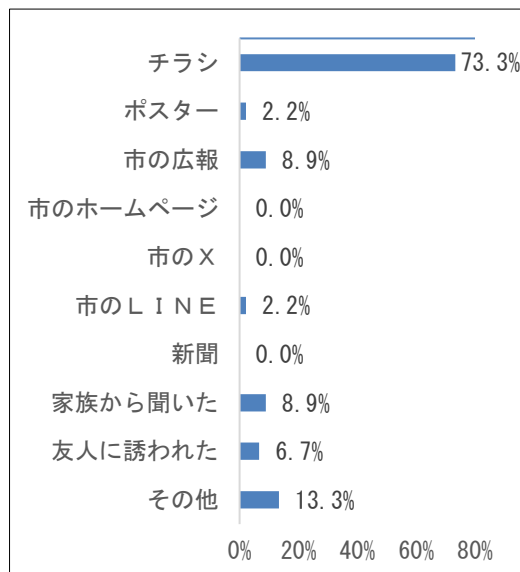


最も選択数が多かった項目は、「思い出ができた」であったが、「新しくやりたいことが見つかった」「アイデアを考えたり、工夫したりすることが楽しかった」「自分でできることがふえた」の合計の割合が 95.5% に達している。これらは、これからの時代を生き抜くために求められる創造力や自主性の育成に資する内容であり、これらの項目が高い割合で選択されたことから、本事業の成果が一定程度表れたものと考えられる。

Q 5. 講座を知った媒体(複数回答) 回答者数 45 人

(単位: 人)

項目	科学	鑑識	合計	比率
チラシ	14	19	33	73.3%
ポスター	0	1	1	2.2%
市の広報	1	3	4	8.9%
市のホームページ	0	0	0	0.0%
市のX	0	0	0	0.0%
市のLINE	0	1	1	2.2%
新聞	0	0	0	0.0%
家族から聞いた	4	0	4	8.9%
友人に誘われた	2	1	3	6.7%
その他	0	6	6	13.3%

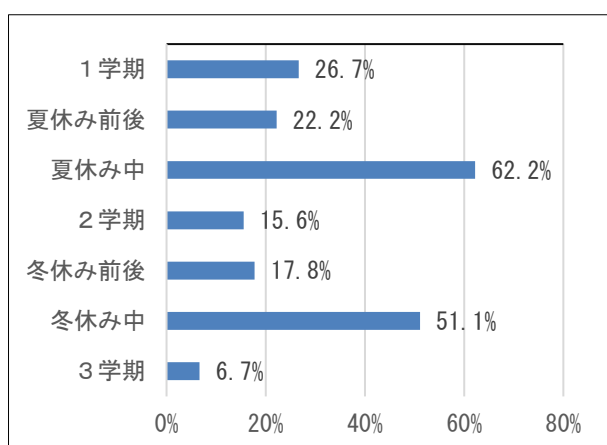


「チラシ」と回答した参加者が圧倒的に多く、学校を通じたチラシ配布が参加者募集において高い効果を発揮したものと考えられる。

Q 6. 講座に参加しやすい時期(複数回答) 回答者数 45 人

(単位: 人)

項目	科学	鑑識	合計	比率
1 学期	8	4	12	26.7%
夏休み前後	3	7	10	22.2%
夏休み中	11	17	28	62.2%
2 学期	1	6	7	15.6%
冬休み前後	2	6	8	17.8%
冬休み中	7	16	23	51.1%
3 学期	0	3	3	6.7%



半数以上が「夏休み中」の長期休み中を希望している。実施時期や学習内容などの調査結果を踏まえて、計画の立案に努めたい。

Q 7. 自由記載欄(抜粋)

○ こども科学実験教室

- ・ ごみがリサイクルできる瞬間や過程を体験することができて良かったです。(小2)
- ・ 透明な粒が沈んで不思議に思いました。発泡スチロールが液体に溶けて不思議に思いました。(小3)
- ・ 次はほかの実験もしてみたいです。ぼくが大人になってもリサイクルをしたいと思います。(小3)
- ・ 昔から化学が好きだったけど、今学習してもっと化学に興味を持ったし、やってみても楽しかったです。(小4)

- ・ 楽しかったから、またやりたいです。もっといろいろなことを知りたいです。(小4)
- ・ プラスチックの性質についてよく分かりました。(中1)

○ 犯人をさがせ！こども鑑識体験教室

- ・ 自分の指紋を見ることができて楽しかったです。(小3)
- ・ 泥棒などを逮捕してみたいです。(小4)
- ・ 鑑識体験では、指紋を探して当てるのが楽しかったです。道場では、逮捕術の体験が面白かったです。(小4)
- ・ 指紋が思ったよりも早く出るということが分かりました。最後の防御がとても難しかったです。(小6)
- ・ 鑑識の粉を使って指紋を取ることを楽しくできたし、いつもしている訓練を知ることができました。(中1)
- ・ 指紋を取る方法が1種類だけじゃないことを今日初めて知ることができました。(中3)

## 令和7年度青少年体験学習事業講座写真

### 1 こども科学実験教室



### 2 犯人をさがせ！こども鑑識体験教室



## 4 ふるさと教育講座について

### (1) 令和7年度ふるさと教育講座実施一覧表（令和8年2月28日現在）

	実施日	開催場所	学習内容	講師	講話内容	参加者数
1	11月13日(木) 13:35~14:25	東朋中学校	大船渡市の自然	大船渡市立博物館 主任学芸員 古澤 明輝	大船渡の大地を学ぼう ～地域の成り立ちと日本最古の植物化石～	82人
2	11月14日(金) 13:35~14:25	大船渡中学校	〃	〃	〃	49人
3	12月17日(水) 13:35~14:35	第一中学校	〃	〃	〃	356人

### (2) 令和7年度ふるさと教育講座アンケート集計結果（令和8年2月28日現在）

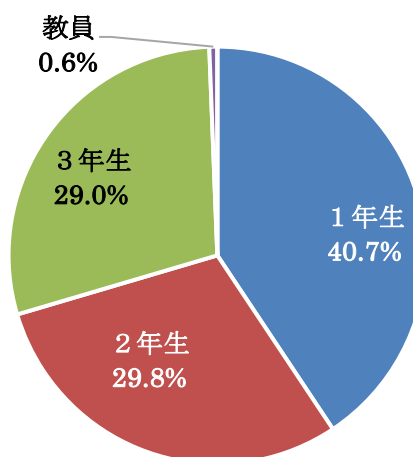
成果指標(全3回のうち3回の合計値)	目標	実績	達成率	○講座参加者数 487人 第一中学校 生徒 356人 大船渡中学校 生徒 49人 東朋中学校 生徒 79人教職員 3名 ○アンケート回収数 487件 (回収率 100%)
「ふるさと教育講座を受講して大変良かった・良かった」、「地元のことを深く知ることができた・知ることができた」と回答した生徒の割合	80.0%	98.2%	122.8%	
「大船渡市の良いところを挙げることができる」、「大船渡市の良いところをいろいろな人に伝えてみたい」と回答した生徒の割合	50.0%	55.2%	110.4%	

#### 【総括】

- ・生徒から「自分がまだ知らない大船渡の凄さを知ることができた」「面白かったしもっと考えを広げていったり何かで活用していきたいと思った」との意見もあり、ふるさとについて知らなかったことを知ることができた喜びや、何かの機会にふるさと教育講座で学んだことを生かしたいという姿勢が見受けられた。
- ・成果指標のうち、「大船渡市の良いところを挙げることができる」、「大船渡市の良いところをいろいろな人に伝えてみたい」について、昨年度は「自分の住む町や大船渡市の良いところを挙げることができる」、「大船渡市の良さを市外の人に説明することができる」という指標にしていたが、いずれも「できる」と回答した参加者については52.0%であった。これは、生徒が「市外の人に伝える」といった部分でイメージしにくかったのではないかと推測し、今年度から指標の見直しを図り、冒頭で記述した通りの内容とした。  
これにより昨年度よりもパーセンテージとしては3%上昇したものの、依然としておよそ5割を推移しているため、今後も生徒や学校のニーズ等に添った学習機会を提供できるよう取り組んで参りたい。

### Q 1. 参加者の学年等

項目	人数	比率
中1	198	40.7%
中2	145	29.8%
中3	141	29.0%
教員	3	0.6%
無回答	0	0%
計	487	100.0%

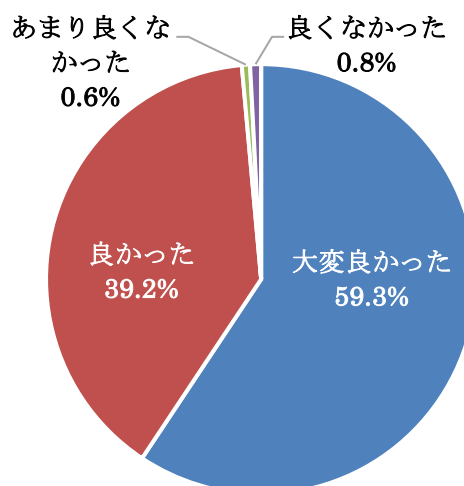


※小数点端数処理に伴い100.0%にならない

大船渡中学校は1学年のみ、ほか2校は全学年及び多くの教職員に参加いただいた。

### Q 2. 講座の感想

項目	人数	比率
大変良かった	289	59.3%
良かった	191	39.2%
あまり良くなかった	3	0.6%
良くなかった	4	0.8%
無回答	0	0.0%
計	487	100.0%

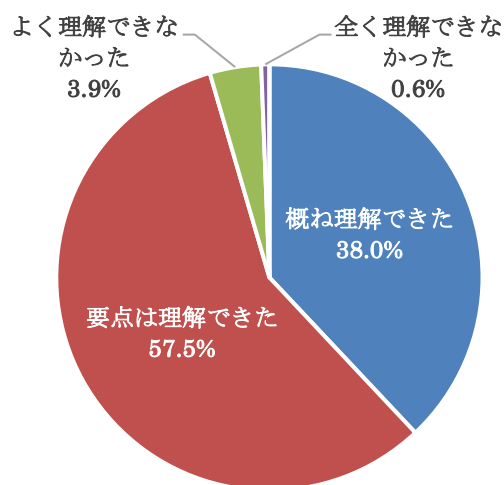


※小数点端数処理に伴い100.0%にならない

参加者の9割以上が「大変良かった」、「良かった」と回答しており、満足度が高い結果となった。来年度についても同様の成果が出せるよう学習内容を十分検討していきたい。

### Q 3. 学習の理解度

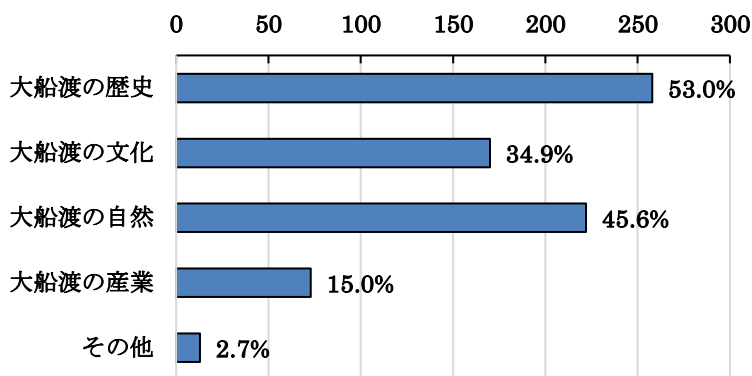
項目	人数	比率
概ね理解できた	185	38.0%
要点は理解できた	280	57.5%
よく理解できなかった	19	3.9%
全く理解できなかった	3	0.6%
無回答	0	0.0%
計	487	100.0%



「概ね理解できた」、「要点は理解できた」と回答した参加者の割合が全体の9割を超えたが、一方で、「よく理解できなかった」、「全く理解できなかった」と回答した参加者も少数いた。

Q 4. 希望する講座テーマ（複数回答可・回答数 487 人）

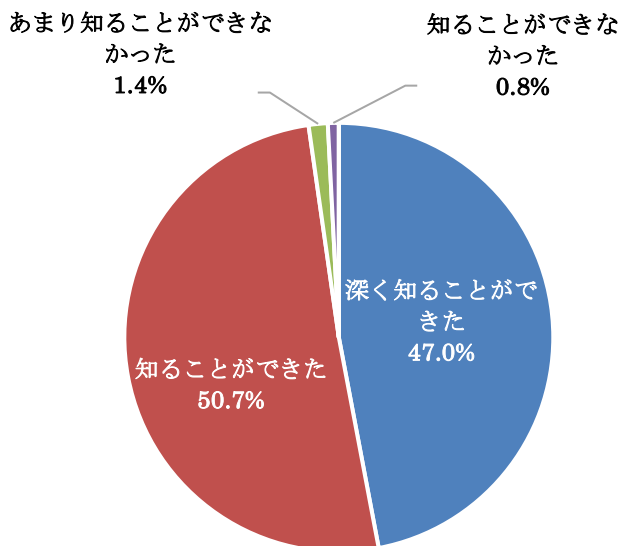
項目	人数	比率
大船渡の歴史	258	53.0%
大船渡の文化	170	34.9%
大船渡の自然	222	45.6%
大船渡の産業	73	15.0%
その他	13	2.7%
計	736	—



最も選択回答の数が多かった項目は「大船渡の歴史」となり、その次に「大船渡の自然」となった。自然は今年度のテーマでもあったが、依然として希望するテーマとして高い水準を維持していることから、生徒の興味が特に高いことが伺える。その他意見として、「大船渡のスポーツ」、「大船渡の若い人」、「食文化」等といった意見が寄せられた。

Q 5. 地元への理解度

項目	人数	比率
深く知ることができた	229	47.0%
知ることができた	247	50.7%
あまり知ることができなかった	7	1.4%
知ることができなかった	4	0.8%
無回答	0	0.0%
計	487	100.0%

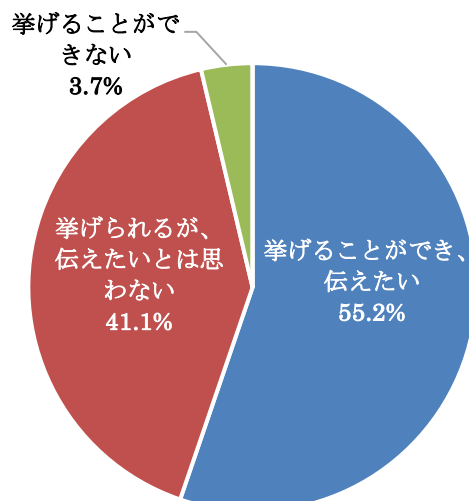


※小数点端数処理に伴い100.0%にならない

成果指標の一つであるが、ほとんどの参加者が「深く知ることができた」、「知ることができた」と回答した。ふるさとへの理解度がより深まったものと伺える。

Q 6. 大船渡市の良いところ

項目	人数	比率
挙げることができ、伝えたい	269	55.2%
挙げられるが、伝えたいとは思わない	200	41.1%
挙げることができない	18	3.7%
無回答	0	0.0%
計	487	100.0%



Q 5 「地元への理解度」と同様に成果指標の一つであるが、「大船渡市の良いところを挙げることができる」「良さをいろいろな人に伝えたい」どちらもできると回答した参加者は 55.2%となった。過半数以上の参加者がどちらもできるとしており、昨年度の同様の成果指標から約 3% 上昇している。今後もさらなる高い比率を目指し、学習機会の提供を図る必要がある。

## Q 7. 自由記載欄 抜粋

### 【東朋中学校】

- 生徒
  - ・ 今回のふるさと教育講座で学んだことは、大船渡ではいろんな時代の化石が発掘されていることです。特に興味を持ったのは、日本最古の植物化石が大船渡で発見されたことです。実物を見ることはできなかったけれど、教科書に載っているのは見つけることができました。ほかにも大船渡で誇れるものがないかを調べたりしたいです。
  - ・ 自分は元々昔の生き物などに興味があったので今回の講座で詳しく知ることが出来てとても楽しかったです。また、今回の講座を通して、自分の住んでいる場所がすごいということに気づくことができました。
  - ・ 自分がまだ知らない大船渡の凄さを知ることができた。
- 教職員
  - ・ 今回の教育講座では、大船渡が全国的にも貴重な地層があることを初めて知った。大船渡の新たな魅力に気づくことができた。

### 【大船渡中学校】

- 生徒
  - ・ 大船渡はたくさんの化石が取れることに驚きました。
  - ・ ふるさと教育講座を通して大船渡の歴史などについて詳しく知れたので良かったです。
  - ・ 大船渡はすごい場所だということが分かった。
- 教職員  
なし

### 【第一中学校】

- 生徒
  - ・ 化石の現物をさわることができて本当にうれしかった。内容も非常に分かりやすかった。
  - ・ 化石だけでなくもっと大船渡のいいところをたくさん知りたいと思いました。
  - ・ 大船渡にはあまりいい印象がなかったから今日化石のことを知って大船渡は実はすごいところなんだなと感じました。特に石灰石の自給率が 100%というところに一番驚きました。今日お話ししてくれたおかげで大船渡のことが少し好きになった気がしました。
  - ・ 今回のふるさと講座を聞いて一番心に残ったのは地質学と考古学の違いです。地質学は人類にかかわらないものだけど考古学は人類に関係することだということを初めて知りました。今回の話をこれからに活かしていきたい。
- 教職員  
なし

## 令和7年度ふるさと教育講座写真

### 【東朋中学校】



### 【大船渡中学校】



【第一中学校】



## 5 スクールガード配置事業について

### (1) 令和7年度スクールガード配置事業実施結果

各校の状況に応じ、次のとおり配置した。

- ・引率型：盛小2人、大船渡小4人、末崎小2人、日頃市小1人、大船渡北小4人、綾里小3人、吉浜小12人
- ・通学路巡回型：赤崎小1人、猪川小1人、立根小2人、日頃市小2人、大船渡中3人
- ・スクールバス添乗型：赤崎小1人

学校名	人数（人）		R 7 合計活動時間 （4月～1月分）	R 6 合計活動時間 （4月～1月分）	備考
	R 7	前年度比			
盛小学校	2	▲ 2	113 時間 00 分	206 時間 45 分	1 人謝金辞退
大船渡小学校	4	—	1,203 時間 30 分	1,231 時間 15 分	
末崎小学校	2	1	102 時間 15 分	75 時間 00 分	
赤崎小学校	2	—	654 時間 15 分	678 時間 30 分	
猪川小学校	1	—	194 時間 30 分	192 時間 45 分	
立根小学校	2	—	578 時間 30 分	650 時間 00 分	
日頃市小学校	3	—	741 時間 00 分	697 時間 45 分	
大船渡北小学校	4	—	537 時間 45 分	544 時間 00 分	
綾里小学校	3	—	566 時間 45 分	636 時間 45 分	
越喜来小学校	0	—	—	—	
吉浜小学校	12	—	85 時間 15 分	153 時間 00 分	7 人謝金辞退
第一中学校	0	—	—	—	
大船渡中学校	3	—	137 時間 45 分	153 時間 15 分	10 月から活動開始
東朋中学校	0	—	—	—	
合計	38	▲ 1	4,914 時間 30 分	5,219 時間 00 分	

[取組状況]

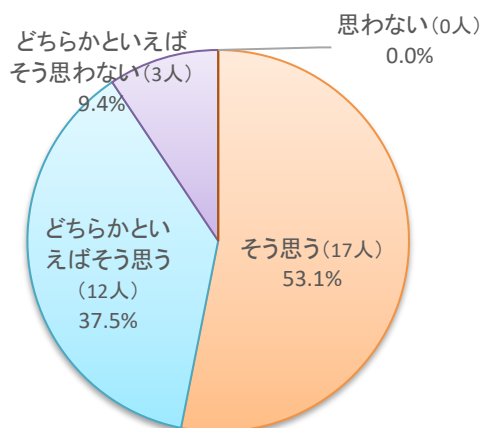
- ・児童・生徒の登下校時の安全を確保するため、市内小中学校 11 校に 38 人のスクールガードを配置した。
  - ・各校の希望に応じ、市広報誌にスクールガードの公募に係る記事を掲載し、配置に向けた取り組みを実施した。
  - ・標記事業の状況を把握するため、スクールガード及びその配置校の保護者を対象としたアンケート調査を実施した。
- ※ アンケートの内容については次項から。

## (2) 令和7年度スクールガード配置事業アンケート集計結果

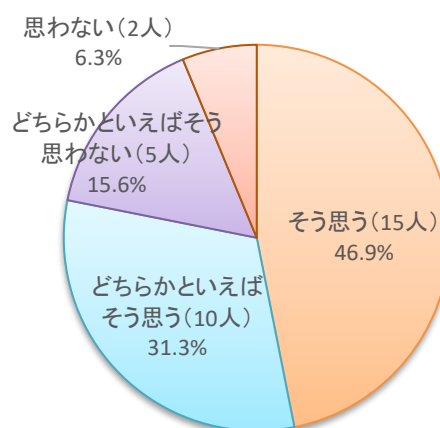
### ○アンケート集計結果（スクールガード）

調査対象者：スクールガード（38人）  
 回収率：84.2%（32人）  
 調査方法：紙面による回答

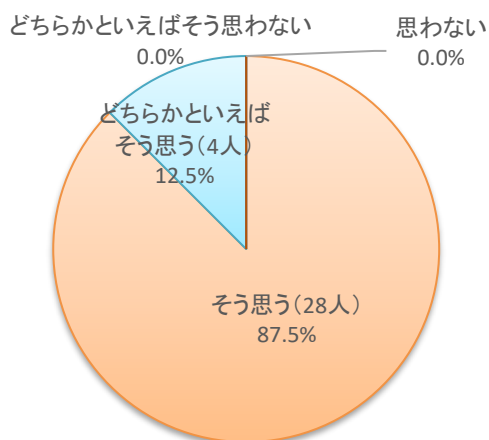
#### Q1 SG活動は生きがいや楽しみか



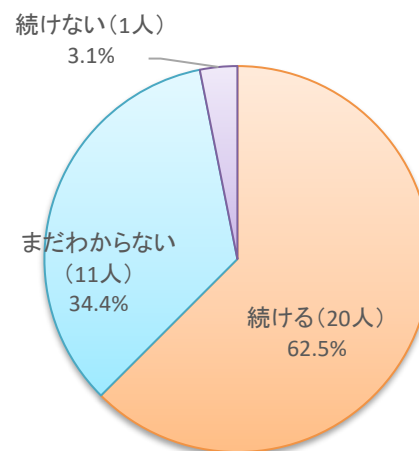
#### Q2 SG活動によって知り合いが増えたか



#### Q3 地域ぐるみでの活動は必要か



#### Q4 来年度以降もSG活動の継続を望むか



#### Q5 自由記載 抜粋

##### 【あいさつについて】

- ・あいさつは上手に出来ている。（盛小）
- ・登下校時のあいさつは非常に良くなっていると思います。寒さにも負けないで、みんな頑張っていると思います。（大小）
- ・学校外でも、特にスクールガードと一緒に歩く子ども達があいさつをするようになった。（末小）
- ・特に低学年のあいさつについては、明るく、はっきりとできるようになっています。（末小）
- ・あいさつは良くなっていると思います。（赤小）
- ・様子が明るくなってきたんではないかと思います。（立小）

- ・登下校のあいさつ、学校以外で会ってもあいさつしてくれる。(日小)
- ・登校時に行き交う車に手を振り挨拶、子ども、往来する方、全員あいさつが返って来るようになりました。歩いて来る子どもさんと話すのが楽しみです。(日小)
- ・毎日指導しているが、その日の気分によって挨拶ができない子や安全確認ができない子もいるので気が抜けない。(北小)
- ・登下校での挨拶はきちんと出来ていると思います。学校外で私と会っても元気に声をかけてくれます。(北小)
- ・登下校時のあいさつ良くなっている。(綾小)
- ・しっかりと目を合わせて、自ら先にあいさつしている子ども達で毎朝うれしく思っています。(綾小)
- ・挨拶の出来ない生徒が多く見られる。(大中)

### 【登下校の様子】

- ・両手を出して歩いて欲しい。(盛小)
- ・その年その年によって、すごーくいい子達で、言う事を聞く子どももいるし、言っても言っても全然聞かない子ども達の時もある。これは不思議である。でも、学年が上になると、大人っぽくなって感動する。この子ども達とのふれあいを大事にしたい。(大小)
- ・集団登校は、学年を問わず話をしながら歩くので、子ども達にとって大事な時間と思われる。(末小)
- ・集団登校にいっしょについて歩いているが、最初の春頃はまとまって歩いているのが、夏休み、冬休みが過ぎたあたりには、だんだんとばらばらで歩く班もでてきている。(猪小)
- ・班長だから…と責任感がでてきている高学年の子もいる。(猪小)
- ・熊の出没対応のためと思われるが、歩いて登校する児童は全校(46人)の1割程度になってしまった。自宅から車で送られてきて、学校の近くで下ろされたり、学校の駐車場で下ろされたりしている毎日である。体の成長に影響がなければいいが。(日小)
- ・曜日によって下校時刻が異なる学年もあるが、時間をまちがえて遅れてくる友達のご家庭の車を一緒に待ってあげている姿をみかけることがあった。(日小)
- ・登下校の際、校門前の横断歩道で一旦止って左右確認をせず歩いてしまう低学年の子が何人かいたり、真ん中を歩いてきたりと、声かけはしていますが学校の方でもご指導の方をよろしく願いします。(北小)
- ・車での送り迎えが気になる(小学校まで遠い地区なので、スクールバス等での通学が出来ないか?)。(綾小)
- ・今年度から4年生と1年生の2人での登下校になり、昨年度、大人と1人(4年生)で登校していた時と違って、先輩として道路を横断する時など手を上げて左右を確認し手本となって世話をしている。又、会話も楽しそうで良いです。(吉小)
- ・今年度はクマの出没情報などから車両での迎えが多いようですが、徒歩での下校もあり例年より少し早めに川沿いや山際付近道路まで巡回を心掛けております。午後

7時近くの時間帯に国道を上山から赤沢方面へ北上している生徒を見かけることがありますが、下校時に道くさ等の生徒を見ることもなく、特に気になることはないようです。(大中)

### 【その他】

- ・スクールガードが2名だけなので淋しく思う。辞めたいが、もう一人の方を独りにできないので続けるしかないと思っている。(盛小)
- ・熊の出没により車での登下校を余儀なくされたことで、解除された後も車に頼るお子さんもいるようです。体力が軟弱になるのではないかと心配されます。(盛小)
- ・夏の高温、野生動物の出没など、通学環境は年々悪くなっている。将来的には、スクールバスの導入も必要では？(末小)
- ・無防備な登下校時、クマに出くわさない事だけが願いです。(赤小)
- ・私事で朝だけの見守りになりがちで反省しています。なるべく午後にもと思いつつも…協力不足ですみません。(綾小)
- ・熊の出没で車での送迎に変わったからか体力が低下している気がします。(吉小)
- ・子どもが在籍しているうちは、スクールガードは続けたいと思っています。ただ、地域に子どもが少なくなっているので、歩きで登校している子が少ないのがさびしいです。(吉小)
- ・地域でスクールガードを探しても高齢化などでやってくれる人もいないため、保護者からスクールガードを出さなければいけずかなり負担が大きい。みんな仕事しているので…。(吉小)
- ・生徒の減少が心配。(大中)

SG活動が生きがいや楽しみとなっていると答えた方は90.6%（昨年度86.1%）であった。自由記載においても、子どもたちの成長を見守ることに喜びを感じている様子や、楽しみながら責任感をもって活動している様子がうかがえる。

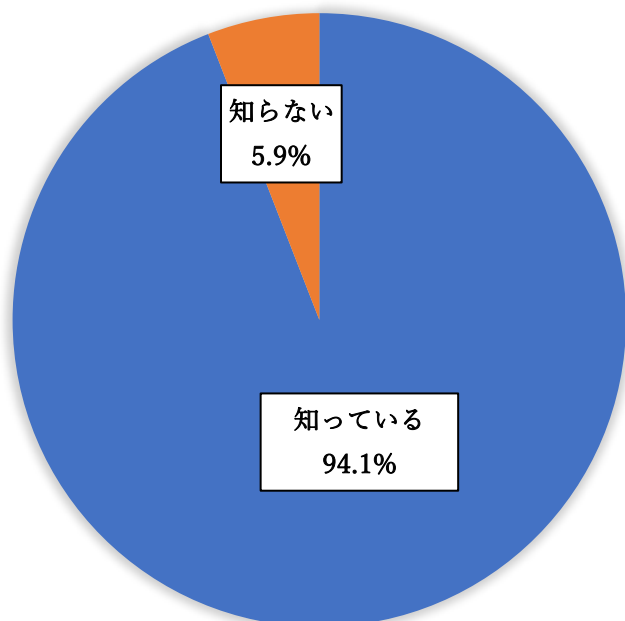
SGを「続ける」と答えた方は62.5%（昨年度58.3%）とおおむね例年どおりであるが、人材の確保が今後の事業継続を左右する。

今年度の新規SG登録者は5人で、現役世代（新規SG登録者の平均年齢：55.8歳、その他SGの平均年齢：64.3歳）を確保できたものの、SGの半数が75歳以上であることから、今後も地域住民や保護者等の幅広い参画を求めていく必要がある。

○アンケート結果（スクールガード配置校の児童・生徒の保護者）

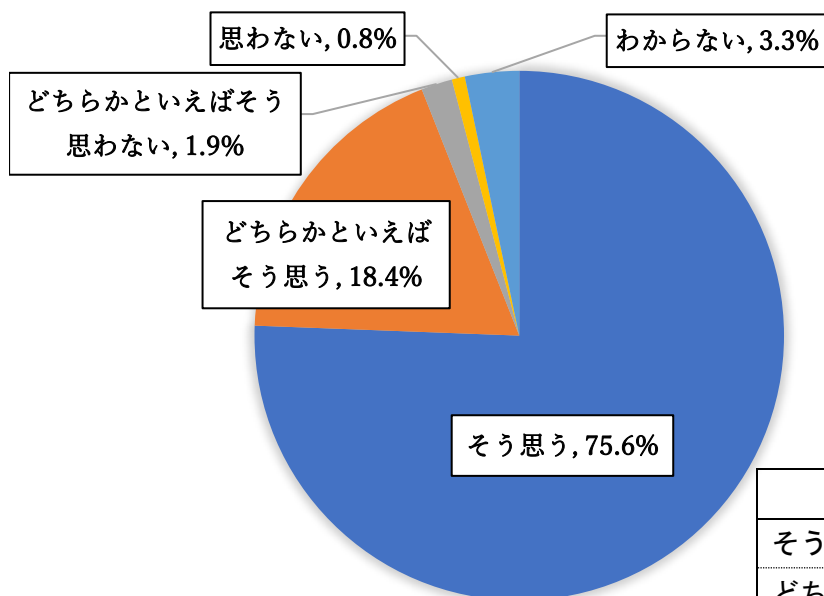
調査対象者：スクールガード配置校の児童・生徒の保護者（1,355人）  
 回収率：53.7%（728人/1,355人）  
 調査方法：Microsoft Formsによるオンライン回答

Q1 お子さんが通う学校にSGが配置されていることを知っているか



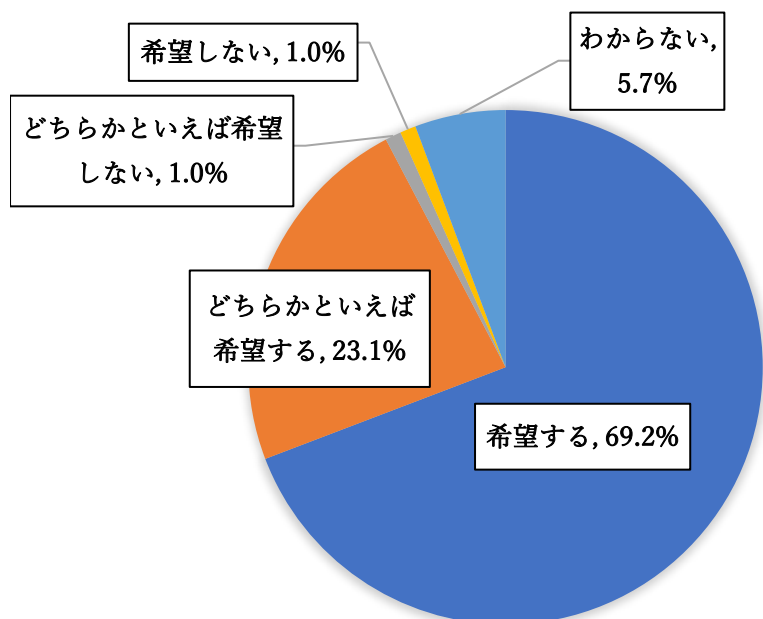
回答	人	%
知っている	685	94.1
知らない	43	5.9
計	728	100.0

Q2 SGの配置により、登下校時の安全が保たれていると思うか



回答	人	%
そう思う	550	75.6
どちらかといえばそう思う	134	18.4
どちらかといえば思わない	14	1.9
思わない	6	0.8
わからない	24	3.3
計	728	100.0

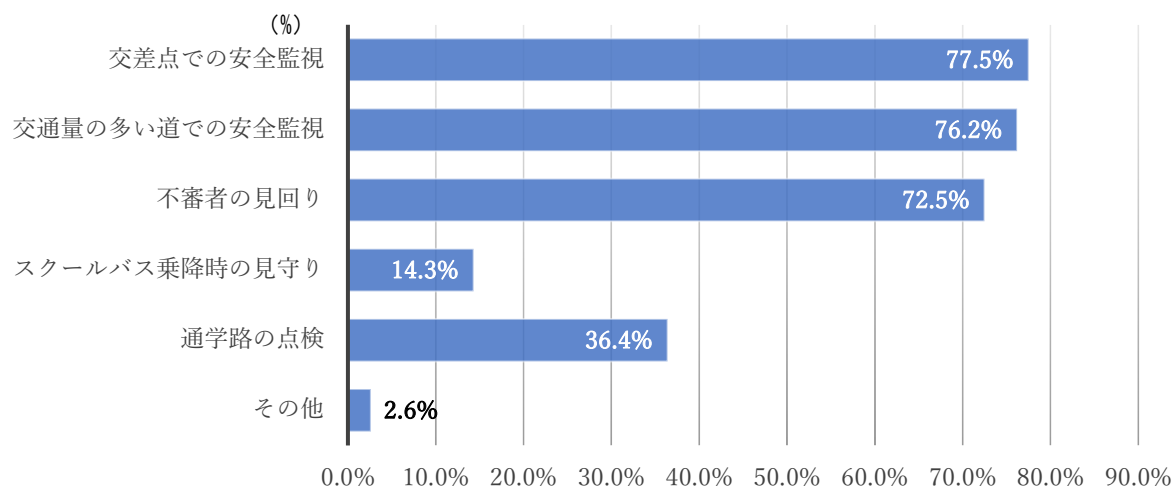
### Q3 SG活動の継続を希望するか



回答	人	%
希望する	504	69.2
どちらかといえば希望する	168	23.1
どちらかといえば希望しない	7	1.0
希望しない	7	1.0
わからない	42	5.7
計	728	100.0

回答者の92%（昨年度94%）が今後も事業継続を求めているが、地域ごとの児童・生徒の多寡により、SGの負担を心配する声や、緊急時に対応できる、若く体力のあるSGの増員を求める声が多かった。

### Q4 お子さんが通う学校で必要だと思うSG活動は何か（複数回答可）



交通安全に関わる回答が最も多く、子どもたちへの付き添いや声掛けを望む声が多かった。

その他「熊」、「暗い場所での見守り」、「挨拶」、等を望む声があった。

回答	回答数	%	順位
交差点での安全監視	564	77.5	1
交通量の多い道での安全監視	555	76.2	2
不審者の見回り	528	72.5	3
スクールバス乗降時の見守り	104	14.3	5
通学路の点検	265	36.4	4
その他	19	2.6	6
回答総数	2,035	—	—

※ （回答数） / （回答人数 728 人）の割合

## Q5 自由記載 抜粋

### 【良かったこと】

- ・いつも朝早くからありがとうございます。
- ・天候に関わらず、見守りして頂いて本当にありがとうございます。スクールガードは必要だと思いますが、スクールガードの方の負担が大きくなるのもあるかなとは思っています。
- ・横断歩道は朝の通勤時間帯で車が途切れません。スクールガードさんが車を止めてくださりとても助かります。
- ・いつも温かく子どもたちを見守ってくださり、心より感謝しております。登下校の際にも、何かあれば学校へご連絡いただけることがとても心強く、安心して仕事に向かうことができます。これからも子どもたちの成長を一緒に見守っていただけましたら嬉しいです。
- ・朝早くからバスに同乗して子どもたち一人ひとりに声をかけていただきありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
- ・日々大変だと思いますが、子ども達の登下校時スクールガードさんが居ると交通の面や不審者の面を考えると安全材料になるので助かります。いつもありがとうございます。
- ・いつも見守ってくださり感謝しています。徒歩で登校する児童は少なくなっていると思いますが今後もお願いいたします。
- ・暑い中、寒い中、毎日子どもたちの安全のためにありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
- ・スクールガードの方々のお陰で毎日子ども達は安全に登校できていると思います。ありがとうございます。
- ・スクールガードさんがいつも見回りしてくださりすごく感謝しております。子ども達は、スクールガードさんが居てくれるだけで安心と言っていました。
- ・低学年のうちには特に交通マナーに配慮が必要だと思いますので、スクールガードの皆様の活動がありがたいです。
- ・交通量の多い道路なので、すごく安心です。いつもありがとうございます！
- ・悪天候でも子ども達の為に見守ってくださって感謝しています。子どもの数は減少していますが、なくてはならない存在だと思っています。今後も継続して欲しいです。
- ・自分が現役世代を退いたらスクールガードをしたいと思います。感謝を引き継いでいきたいです。
- ・子供の名前も覚えていただいております、声かけも助かっています。
- ・安全確保、交通指導も大切だと思いますが、スクールガードさん、地域の方々に登下校時に感謝を込め（ありがとうございます、おはようございます、さようならなど）大きな声で言える大人、子供が増える事を願います。
- ・なかなかできる事じゃないので本当に有り難く心強いです。熊騒動の時も児童の安全を守ってくださり感謝しかありません。いつもありがとうございます。
- ・明るく声をかけてくれるので、子どもは会えるのも楽しみにしています。

- ・いつも横断歩道のところで子どもたちを見守ってくれて安心を感じます。スクールガードさんが見守ってくれる範囲は安全に登校できると感じます。
- ・毎日学校の前で、道路を渡らせていただいています。登校班に付き添っていただく時もあり、感謝しております。
- ・本来は学校まで安全に登下校を見守るのは親の役目であると認識しています。登校班の待ち合わせ場所に保護者がいなく子ども達だけの集合になっていて、登下校を見守る保護者がいない中でスクールガードがいらっしゃる事は大変有り難いですが、本来保護者がやるべき見守りをスクールガードの方々にお任せしすぎるのは良くないのではないかと思います。出来る時には登下校が安全に出来るよう見守るようにして行きたいです。
- ・これからもスクールガードさんの配置は希望します。このご時世、交通安全と不審者等からの見守りは欠かせないと思っていますので、今後ともお願いしたいです。
- ・小学校にあがる子どもができてから、重要性和毎日の見守りに感謝をしています。交通量や歩道、道路の幅などで危険だと思うところはあります。そこを見ていただき、親としては安心。今後もぜひスクールガードを継続して欲しいと思います。
- ・いつもご苦労様です。挨拶運動にもなると思うので今後も親、家族、ガードさん共々協力し続けた方が良くと思っています。
- ・地域で他所の子に物言う大人自体が少なくなり、挨拶が出来ない子どもたちに家庭や学校では出来ない社会のマナーやルールのな当たり前のことを学ぶ機会を与えてもらっています。スクールガードをされている方々に負担が無い範囲で子どもたちと関わって行って貰いたいです。
- ・親の迎えが遅くなり一人で待たせてしまうこともあったのですが、話をしながら一緒に待ってくださったようで、息子がとても安心しておりました。ご年配の方が多く、ご負担が大きいのではと感じておりますが、子ども達や地域の安全を見守っていただけますとありがたいです。
- ・スクールガードの方の姿があるだけでも、子どもたちの登下校だから気を付けないと意識します。お体気をつけていただきたいと思います。

### 【要望】

- ・私の地域のスクールガードはバスに乗るギリギリの時間に来ます。子ども達よりも早く来て見守ってくれるならわかるが、バスの発車時刻ぴったりくらいに来ると、スクールガードの意味があるのかよくわからない。
- ・前だけ見て、子どもたちを置き去りに早歩きしていることがあるのであまり年配すぎる方だと意味がないと思います。
- ・高齢者が多く不安。有事の際に対応が遅れそう。
- ・スクールガードの人数が足りない。
- ・通学路が熊の出没が懸念される通学路で、子どもだけでなくスクールガードにも危険がある。スクールガードのおかげで子ども達が安全に通学できることはもちろんですが、スクールガードの安全は誰が守るの？ということになると思います。
- ・予算もあると思うが、スクールガード配置事業は是非とも継続していただきたい。

## 6 学校支援事業について

### (1) 令和7年度学校支援事業実施結果（地域コーディネーター）

学校名	人数（人）		R 7 合計活動時間 （4～1月分）	R 6 合計活動時間 （4～1月分）	備考
	R 7	前年 度比			
盛小学校	1	—	0時間 00分	0時間 00分	1人謝金辞退
大船渡小学校	1	—	0時間 00分	2時間 00分	
末崎小学校	1	—	0時間 00分	2時間 00分	
赤崎小学校	1	—	36時間 15分	41時間 15分	
猪川小学校	1	—	0時間 00分	4時間 00分	
立根小学校	1	—	6時間 15分	5時間 00分	
日頃市小学校	1	—	6時間 15分	12時間 15分	
大船渡北小学校	1	—	12時間 45分	28時間 15分	
綾里小学校	1	—	0時間 00分	3時間 00分	
越喜来小学校	1	—	4時間 45分	18時間 30分	
吉浜小学校	1	—	8時間 00分	0時間 00分	
第一中学校	0	—	—	—	
大船渡中学校	1	—	0時間 00分	0時間 00分	1月から新たに配置
東朋中学校	1	—	4時間 45分	0時間 00分	
生涯学習課	1	—	4時間 30分	11時間 15分	
合 計	14	—	83時間 30分	127時間 30分	

※ 複数校を兼務する地域コーディネーターがいるため、総数と異なる。

※ 地域コーディネーター登録者数：12人

〔取組状況〕

- ・学校の授業（調理実習、裁縫、水生生物調査、復興教育・防災学習等）や、総合学習（社会科見学、生け花教室、昔遊び等）において、ボランティアの募集や、地域コーディネーター自身が講師を務めた。授業に向けて、随時、ボランティア及び学校との打合せを行った。
- ・図書支援活動地域ボランティア配置校における、図書修繕用消耗品購入希望の取りまとめ・選定を行い、発注した。

## (2) 令和7年度学校支援事業実施結果（地域ボランティア）

学校名	図書支援 人数（人）		金管支援 人数（人）		R 7 合計活動時間 （4～1月分）	R 6 合計活動時間 （4～1月分）	備考
	R 7	前年 度比	R 7	前年 度比			
盛小学校	2	—	2	—	258 時間 45 分	267 時間 30 分	2 人謝金辞退
大船渡小学校	3	1	0	—	53 時間 30 分	33 時間 30 分	
末崎小学校	4	4	0	—	649 時間 30 分	—	
赤崎小学校	2	—	0	—	158 時間 30 分	168 時間 30 分	
猪川小学校	4	—	0	—	154 時間 45 分	300 時間 15 分	
立根小学校	2	—	0	—	201 時間 30 分	204 時間 30 分	
日頃市小学校	2	—	0	—	50 時間 00 分	33 時間 30 分	
大船渡北小学校	4	—	0	—	638 時間 45 分	714 時間 45 分	
綾里小学校	4	1	0	—	501 時間 15 分	514 時間 15 分	
越喜来小学校	2	—	0	—	185 時間 30 分	166 時間 00 分	
吉浜小学校	1	—	0	—	101 時間 30 分	99 時間 00 分	
第一中学校	4	1	0	—	69 時間 30 分	70 時間 00 分	
大船渡中学校	4	—	0	—	355 時間 00 分	219 時間 00 分	
東朋中学校	2	—	0	—	35 時間 15 分	68 時間 00 分	
合 計	40	7	2	—	3,413 時間 15 分	2,858 時間 45 分	

※ 複数校を兼務するボランティアがいるため、総数と異なる。

※ 地域ボランティア登録者数：21 人（図書支援：19 人、金管支援：2 人）

〔取組状況〕

- ・ 図書の修繕、図書室の環境整備、金管クラブの指導を実施した。
- ・ 図書支援活動地域ボランティア研修会を立根小学校で開催。研修会の受講者を対象にアンケート調査を実施した。

※ 研修会及びアンケートの内容については次項から。

令和7年度大船渡市学校支援事業  
「図書支援活動地域ボランティア研修会」実施結果

日時	令和7年12月22日(月) 午後2時～4時45分
場所	大船渡市立立根小学校 図書室
テーマ	「子どもと本の出会いを増やすために」
講師	大船渡市立図書館 司書 中井 佳織 氏
参加者	図書支援活動地域ボランティア：8人 図書担当教諭：3人 沿岸南部教育事務所：浅沼主任社会教育指導主事

## 1 趣 旨

大船渡市の地域学校協働本部事業実施にあたり、図書支援活動地域ボランティアが専門知識を学ぶことにより、学校支援活動の充実を図る。

## 2 内 容

- (1) 講演及び実演（演題：今できることを考えよう ～立根小学校の実践をもとに～）
  - ・ 講師の中井氏と、立根小の地域ボランティアの佐々木氏により、立根小図書室のツアーを行い、図書室の現状や、工夫のポイントなどを紹介いただいた。
  - ・ 図書室を利用する児童から意見を取り入れたり、図書の面出しを工夫したりするなど、他校のボランティアからの評価が見られた。
  - ・ 牛乳パックを再利用し、手作りのブックスタンドを作成したり、図書担当教諭と相談しながら排架したりするなどしている。 等



- (2) 本の紹介 POP づくり ワークショップ

- ・ 市立図書館へ職場体験に訪れた中学生が作成したポップの紹介を受けた。
- ・ 参加者それぞれで立根小図書室にある本を選び、ポップ作成の実践を行った。

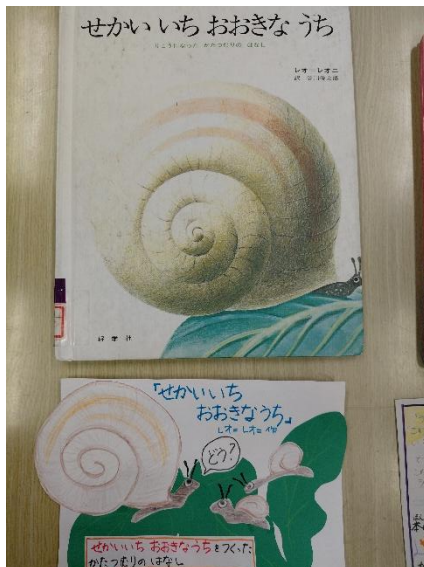


中学生の皆さんに、1枚1枚工夫の  
見られるポップを作成してもら  
いました！

「どうすれば目を引くポップを作れ  
るか？」  
「絵がヘタだから恥ずかしいな…」  
「シンプルに、それとも手の込んだ  
ものに…」 etc.



### 図書ボラ、担当教諭の作成したポップの一例



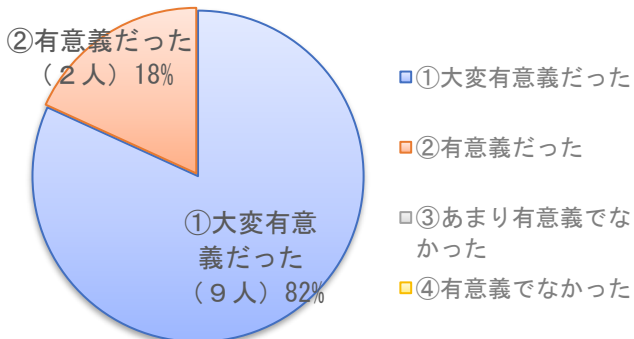
### (3) 情報交流

日頃の「業務内容」、「業務の課題」、「解決策」について、ボランティア同士で話した。

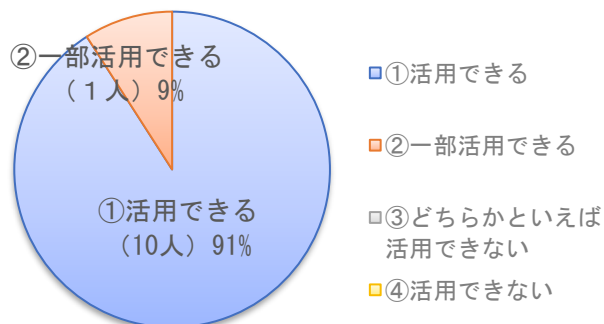
### 3 アンケート結果

調査対象者：図書ボラ、図書担当教諭（11人）  
回収率：100.0%（11人）

#### Q1 研修会の評価



#### Q2 研修会の内容は、活用できるか



#### Q3 研修会への意見や感想（自由記載）※一部抜粋

- ・ きちんと整えられた図書館を見られただけで勉強になった。
- ・ 図書ボランティアさんや他校の担当の先生方と一緒に活動したり情報交流をしたりすることができて良かった。
- ・ POP 作りの実習は大変有意義だった。もう少し時間があればと思った。
- ・ 図書ボランティアさんの配架に関する熱心な思い何うことができ、図書室をもっと子どもが活用してくれるよう働きかけをしたいと思った。
- ・ 実践に結び付く内容で良かった。
- ・ 自分の担当校しかわからず活動していたが、皆さんの活動の様子を聞くことができて大変参考になった。

#### Q4 研修会の内容に限らず、意見等（自由記載）※一部抜粋

- ・ 子どもと本の出会いが増えるように、これからも頑張っていきたい。
- ・ また、いろいろな学校の図書室に伺いたい。
- ・ ボランティアさんと担当教諭と一緒に研修を受けることができて良かった。
- ・ 実務経験の長い方たちの苦勞を教えてください、とても有意義だった。

研修会に参加した全員が、「大変有意義であった」、「有意義であった」、「今後の活動に活用できる」、「一部活用できる」と回答した。

会場を、実際に各ボランティアが活動している学校図書館としているが、「お互いの活動場所を見学できる良い機会」と、非常に好評である。

昨年のアンケート結果から、研修会の時間を延ばしたが、満足度は高かったように伺える。

研修会の継続した実施により、図書担当教諭の参加が増え、交流の場としても機能しており参加者からは充実の声が聞こえた。

## 7 学校運営協議会及び地域学校協働活動について

### (1) 学校運営協議会の設置・運営

【実績】今年度開催した学校運営協議会の回数（3月9日現在）

No.	学校名	開催回数	No.	学校名	開催回数
1	盛小学校	3	9	綾里小学校	3
2	大船渡小学校	4	10	越喜来小学校	3
3	末崎小学校	4	11	吉浜小学校	2
4	赤崎小学校	3	12	第一中学校	2
5	猪川小学校	3	13	大船渡中学校	3
6	立根小学校	3	14	東朋中学校	2
7	日頃市小学校	3		市内 15 校	41
8	大船渡北小学校	3			

### (2) 学校運営協議会において熟議の開催

【実績】今年度開催した熟議の回数（3月9日現在）

学校名	熟議回数	熟議テーマ
盛小学校	1	「地区・地域と連携した教育活動について」
大船渡小学校	2	「地域と連携した教育活動について」 「今後の実践と今後の見通しについて」
末崎小学校	2	「末崎の子どもたちに育てたい力」 「教育振興運動の取組について」 「学校の教育活動の要望」
赤崎小学校	1	「まなびフェストから見える学校課題とその改善に向けた取組について」
猪川小学校	1	「令和7年度学校経営方針、年間行事予定、主な教育活動計画について」
立根小学校	2	「子どもたちも立根町の皆様も生き生きと活動する地域学校協働活動にするために」
日頃市小学校	1	「みんなで築くふるさとひころいち」
大船渡北小学校	1	「学校と地域との連携の在り方について」
綾里小学校	1	「綾里地区の風水害の防災について」
越喜来小学校	1	「漁業まち越喜来 海の恵みを学ぶ機会を増やすにはどのようにしたらよいだろうか」
吉浜小学校	1	「吉浜を誇りに思う子どもについて」
東朋中学校	1	災害に強い町づくり

### (3) 熟議の事例

ア 日頃市小学校第2回学校運営協議会の熟議について

テーマ「みんなで築くふるさとひころいち」

○ 3つのグループごとにどのような日頃市で活躍する児童を育成していくのか協議した。

- ・ Aグループは、「郷土に誇りをもち、地域の宝、郷土芸能等の伝統を受け継いでいく日頃市」を目標とし、「地域の人との交流、触れ合いを通して、郷土愛をもち、地域活動に積極的に参加する子ども達」を育成していくことを検討。
- ・ Bグループは、「化石、洞窟、歴史、郷土芸能、自然など、地域の自慢を生かす日頃市」を目標とし、「日頃市のよさを知り、郷土愛あふれる子ども達」を育成していくことを検討。
- ・ Cグループは、「世代間、近所・近隣との交流が深まる日頃市」を目標とし、「いろいろな世代と交流する子ども達」を育成することを検討。
- ・ 協議内容をもとに、地域と協働した具体的な活動につなげていく。

イ 綾里小学校第2回学校運営協議会の熟議について

テーマ「綾里地域の風水害の防災について」

○ 風水害の防災について、危険地域（過去の浸水区域、氾濫の危険性がある河川、土砂災害危険区域等）、避難場所、経路等を情報共有し、今後の備えについて検討。

- ・ 砂防ダムの建設や林野火災による山の保水力の減少について。
- ・ 地域からの情報を基に、学校の防災マニュアルの見直しを図った。

### (4) 令和7年度のまとめ

#### 【成果】

- ・今年度も全小中学校が2回以上学校運営協議会を開催することができた。
- ・2回開催の学校は、年度当初に学校経営方針を確認し、年度末に評価について具体的に意見交流ができた学校が多くあった。
- ・3回開催の学校は、2回目に熟議を取り入れている場合が多く、1回目終了後から2回目開催までに見てきた学校の課題や、今後に向けて自分たちができることについて熟議している様子が見られた。
- ・多くの学校では前年度から継続している地域と連携した活動を行うことができた。熟議をとおして自分の地域や学校について考え直したり、新しく地域と連携した活動を考えたりする学校も見られた。

#### 【課題】

- ・熟議の内容の検討が必要である。地域と学校で目標を共有し、協働した活動を実現していくことに課題がある。
- ・報告・確認のみ実施し、熟議に至らない場合があった。熟議のテーマ例を示しながら、各校1回の熟議を実施できるよう依頼していく。